

噴火湾におけるアカガレイ若齢魚調査について

○はじめに

噴火湾海域におけるアカガレイ若齢魚調査(ソリネット調査)は、刺し網漁業の漁獲対象(4歳以上)となる前のアカガレイの分布量や分布状況を調べることで、年級群豊度の早期把握をすることを目的として2007年から調査を開始しています。調査方法や調査開始初年度の結果については、「試験研究は今」No.612で報告していますが、その後も2014年度までは年2回(7月、2月)、2015年度以降は年1回(2月)調査を継続していますので、これまでの調査結果について紹介します。

○調査結果

当海域のアカガレイは、数年に1回発生する卓越年級群に依存した年齢組成になっているため、卓越年級群が発生すると、4歳で漁獲物に高い割合で出現するようになります。その後、6~7歳で漁獲尾数はピークとなり、減少に転じますが、卓越年級群の規模や発生間隔の長短により、漁獲尾数は大きく変動します(図1)。

2000年以降では、2003、2004、2008及び2009年級群が卓越年級群となりましたが、2008、2009年級群は本調査において1、2歳時にソリネットでも多数採集されました(図2)。そのため、この2年級群については、その後の刺し網での漁獲動向を注目していたのですが、期待通り卓越年級群になりました。また、卓越年級群の規模も、ソリネットによる採集数から、2008年級群の方が2009年級群よりも大きいと推定していましたが、これもその通りの結果となり、この調査の有効性が確認されました。この他にも、2歳以下の若齢魚は湾奥の豊浦沖に多いことが分かりました(図3)。最近の調査では、2013年級群も2008、2009年級群時ほどではないですが、ソリネットでの採集状況から豊度の高い年級群になる可能性が高いと推測しています。ただし、2010~2012年級群については、本調査における採集数が少なく、定期的に実施している刺し網漁獲物の測定結果でも、測定標本中にあまり出現していないことから、豊度の低い年級群と考えられます。なお、2013年級群は4歳となる2017年、つまり今年から漁獲対象になるものとみられますが、卓越年級群であった2008、2009年級群は高齢化に伴い漁獲尾数が減少していくと推測されることや、2010~2012年級群は低豊度の年級群である可能性が高いので、その次の卓越年級群が確認されるまでは、漁獲圧を調節しながら上手に利用していくことが大切と考えられます。

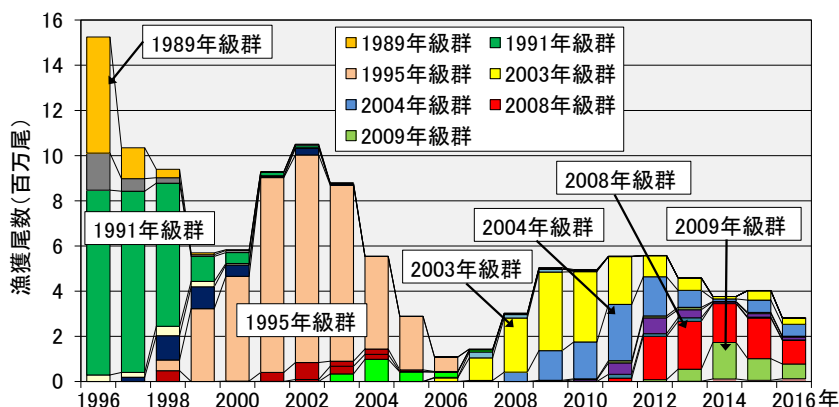


図1 アカガレイ年級群別漁獲尾数の推移

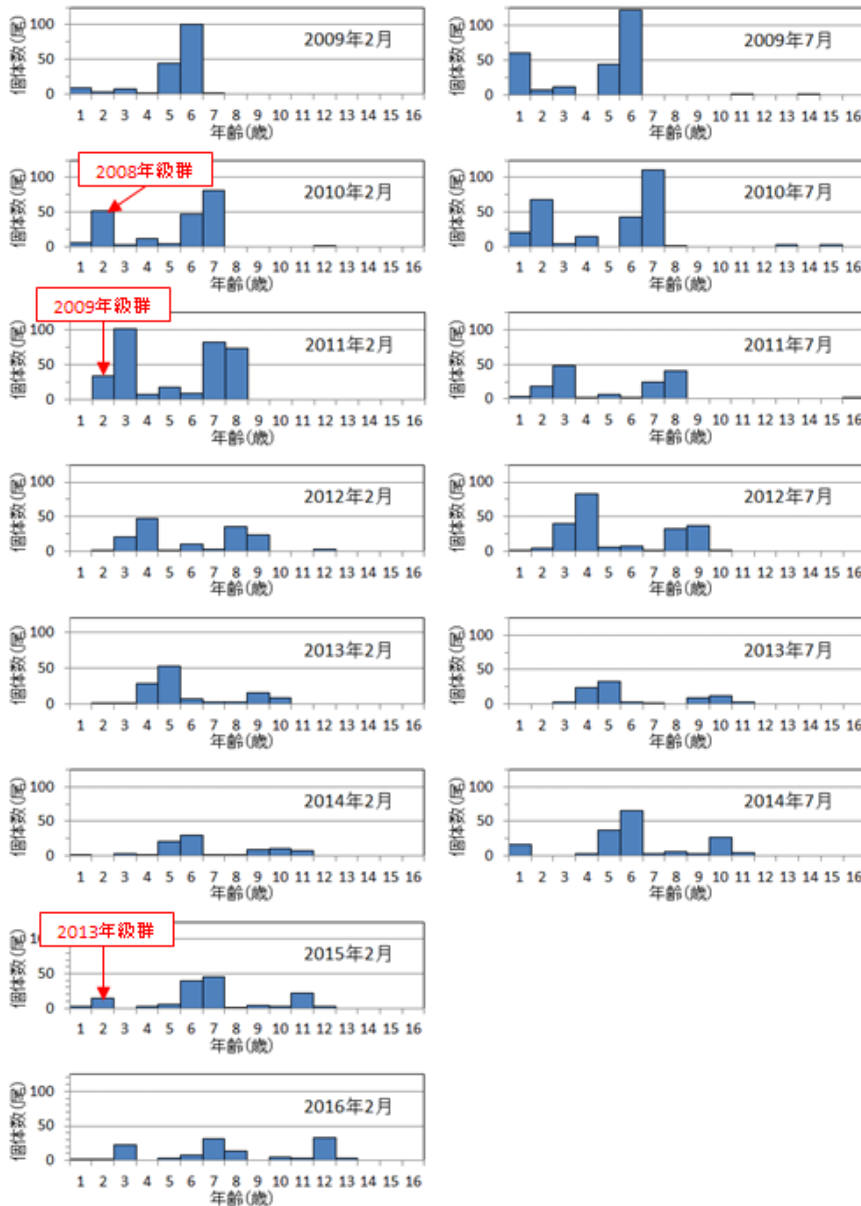


図2 ソリネットで採集されたアカガレイの年齢組成
左列：2月調査結果，右列：7月調査結果

○おわりに

卓越年級群を漁獲対象となる前に把握し、その規模や分布状況をモニタリングできれば、アカガレイ資源の持続的利用を目的とした資源管理方策を設定するための有効な情報を提供できます。例えば、卓越年級群の発生がみられない時は、漁獲努力量を調整して漁獲圧を下げる等の対策を施すことで、これまでのような漁獲量の大きな年変動を抑制し、安定した収入を上げることが可能になるかもしれません。年級群の資源状態を勘案した漁業のあり方を推進し、アカガレイ資源を上手に利用して欲しいと願っています。

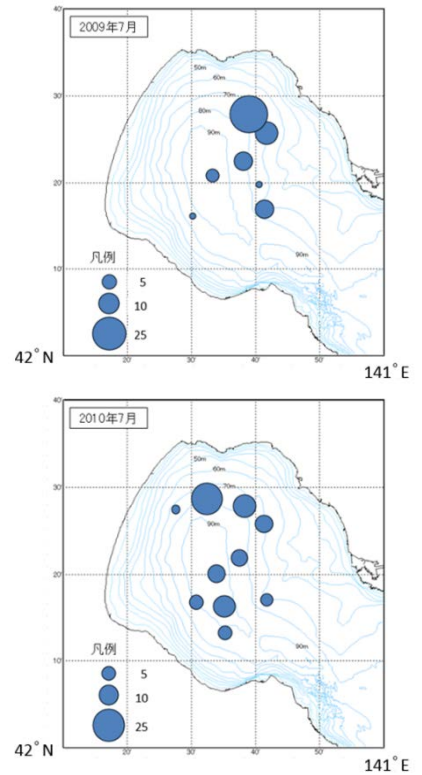


図3 アカガレイ若齢魚（2歳以下）の分布
上：2009年7月，
下：2010年7月